

第14回日本臨床検査学教育学会学術大会を終えて

古 閑 公 治*

第14回日本臨床検査学教育学会学術大会が、令和元年8月21日(水)から8月23日(金)まで3日間の日程で熊本市北区にある熊本保健科学大学にて開催されました。学会参加登録者は、教員253名(学会会員235名、非学会会員18名)、日本臨床衛生検査技師会1名、学生95名の計349名となりました。その他、学会運営に携わった本学学生および教職員、協力企業の皆様を含めると400名を超え、3日間の延べ参加者数は800名以上となり、盛會に学会を終了することが出来ました。これも参加された会員校の先生方をはじめ学生、企業の皆様のご協力・ご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

さて、今大会のメインテーマは、『支え合う・寄り添う』でした。我々は、平成28年4月に震度7の前震と本震で熊本地震を経験しました。本学構内は、全国から被災地復興支援DVT検診ボランティアや学生ボランティアの拠点となりました。熊本地震を乗り越えて、熊本の地で復興に励んでいる学生や臨床検査技師をはじめ、多くの皆様のひた向きな姿を覗いてみていただければと考えました。そこで、学会テーマを我々の貴重な経験をもとに学生と教職員、災害と臨床検査技師、社会と臨床検査技師など人々が支え合う中、寄り添って共存共栄することで、新たな社会への活路を踏み出すことが、さらに求められているのではないかと考えました。シンポジウムや教育講演、特別招聘講演などを学会テーマに沿って企画しま

した。特に学生と教員との「支え合う・寄り添う」テーマとして、シンポジウム「臨床検査技師教育における修学支援について」、災害と臨床検査技師との「支え合う・寄り添う」テーマとして、特別招聘講演「災害医療支援における多職種連携～熊本地震から学んだこと～」などのプログラムとしました。

学会1日目は、開会式後に日本臨床検査学教育協議会理事長の奥村伸生先生(信州大学)による「臨地実習前の総合実習(いわゆる臨床検査版OSCE)に対する協議会の方向性」の基調講演に続き、會田雄一先生(筑波大学)による「OSLE:臨床検査学教育における形成的OSCEの開発・実践・課題」の実践報告で幕を開けました(写真1)(写真2)。次にシンポジウムは、「臨床検査技師教育における修学支援について:多様な学生への支援」をテーマとして、1題目に「教育現場からの視点」を嶋田かをる先生(熊本保健科学大学)、2題目に「臨床現場からの視点」を山本成郎先生(九州保健福祉大学)、3題目に「元当事者からの視点」を原口彩央里先生(株式会社 臨床宮崎)が講演されました。さらに、特別招聘講演は掃本誠治先生(熊本市立植木病院長)による「災害医療支援における多職種連携～熊本地震から学んだこと～」でした。夕方には、本学レストランにおいて情報交換会が盛大に開催されました。各テーブルには一文字(ひともじ)のぐるぐる、からし蓮根、いきなり団子などの郷土料理に加えて、手打ち蕎麦や

* 熊本保健科学大学保健科学部医学検査学科 hirokoga@kumamoto-hsu.ac.jp



写真1 総合受付



写真2 学会風景

ビーフステーキ、パルミジャーノチーズのリゾットなどの実演コーナーも大好評でした。

学会2日目は、午前中に一般演題発表が100題(教員33題、大学院生28題、学部生39題)でした。大学院生セッション(5題)と学部生セッション(7題)から審査結果後に優秀発表賞として12題が表彰されました(写真3)。ランチオンセミナーは、近藤 弘先生(関西医療大学)による「血液学検査の変遷と国際的標準化—血算と自動白血球分類を中心に—」でした。午後からの特別講演は、崎元達郎先生(学校法人銀杏学園理事長・熊本保健科学大学前学長)による「地震と建物」でした。次に教員・学生合同研修会は、久保野 勝男先生(新潟医療福祉大学)による「法改正(臨床検査の精度の確保)により教育に求められること」でした。次の教育講演1は、松下弘子先生(カウンセリングオフィス KMJメンタルアシスト代表)に

よる「今どきの若者像」でした。優秀発表賞の表彰式に続いて、科目別分科会の10分科会(臨床微生物学、臨床免疫学、輸血学、基礎医学・解剖学、臨床化学検査学、遺伝子検査学、臨床血液学、生体検査学、一般検査学、病理組織細胞学)が各会場で開催されました。

学会3日目の最終日、教育講演2は大槻眞嗣先生(藤田医科大学)による「これからPBLチュートリアルを始める方へのメッセージ～準備すること・心がけること～」でした。次の教育講演3は、蒔田 覚先生(蒔田法律事務所)による「医療紛争の現状と臨床検査技師の法的責任」でした。続いてクロージング・トークは、大会長の古閑公治(熊本保健科学大学)による「支え合う・寄り添うことで気づかされた臨床検査技師の世界」でした。最後に閉会式を迎え、3日間の学会を結びました。今回の学会は、熊本保健科学大学との共催でした。



写真3 優秀発表賞 表彰式

参加者の皆様には、公共交通機関である電車などの本数が少なく、大変ご迷惑をおかけいたしました。しかしながら、本学と共催することで会場費や機材調達費などの経費を極力抑えることが出来たことに加え、何よりも全国の参加された皆様に御来学いただき、本学の学生や教職員、本学の雰囲気をご五感で感じていただける機会を得られたことに大変喜びを感じています。また8月の熊本市内において、高温多湿の猛暑でしたが参加者の皆様にはクールビズにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

最後になりますが、大会運営にあたり実行委員

長の労を取りいただきました池田勝義教授はじめ、本学医学検査学科ならびに本学教職員の皆様、本大会との共催にご快諾をいただきご講演を賜りました崎元達郎理事長に心より感謝いたします。来年度の第15回日本臨床検査学教育学会学術大会は藤田医科大学の秋山秀彦先生のもと、愛知県で開催されます。臨床検査技師教育の新たな取り組みやアップデートなど、さらなる大会の進化を心待ちにしております。本学会の益々の発展と皆様のご多幸を祈願し、学会終了のご報告と御礼の挨拶とさせていただきます。